

キャリア・パスポート

今年度、文部科学省は「キャリア・パスポート」の活用委託研究の予算計上をしている。

以前、中高一貫教育校の中学校で、3年間の記録を綴る「カルテ」のようなものを使って教育を行ったことがある。

入学時の目標、6年間の見通し、テストや行事ごとの記録、先生や保護者の短いコメントを記録させた。これを高校接続時に高校の先生へ提示し、後半6年間のキャリア設計につなげることが目的だった。

私は、学年主任として、担任と共に120人のカルテにコメントを記入した。

文部科学省のパスポートはどのようなものかわからないが、長期間の見通し、記録、振り返りは、貴重なキャリア教育になると思う。

自分がカルテを考えたのは、母子手帳がヒントだった。

妊娠したら市町村から母子手帳が交付され、検診記録、発育記録を記入していく。私の母は、娘（嫁）が「母親」になったときに、母親は娘（嫁）に手渡して子育てに活用していた。

（最近では電子化され始めているようだが、手渡す意味では古風な手帳が良いと考えている）

このような取組は、学校単位で行うと、校長がかわることで、廃止になることがあるが、できれば、市町村レベルで、長期にわたって予算措置されたらいいと考えている。

ランドセル担いで、家族で子供の成長を喜び、そこから12年後の高校卒業まで成長の記録が残る。

その間、自分の生き方や目標を振り返り、修正し12年間を過ごすことになる。

100人いたら、50人が12年間活用し、30人が自分の子供に渡せたらと考えている。

仰々しいものではなく、ちょっと立派な小さなノートのようなものがよい。

特別支援教育では、個別の指導計画や支援計画が実施されているので、すべての子供に類するものがあるのも良いのではなかろうか。

市町村で教育行政に携わることができたら実現させたいものだ。

教育は、その時その時の「点」ではなく、長期にわたる「線」である。（もしかしたら立体なのかもしれない）

長い目でみる視点が大切である。